

平成 22 年 4 月 9 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2005～2008

課題番号：17390584

研究課題名（和文）

医療処置・手術を受ける子どもへのプレパレーション・モデルの開発と教材作成

研究課題名（英文）

Formulation of a practice model and development of teaching materials

for the preparation of children undergoing medical procedures or operations

研究代表者

蝦名 美智子（EBINA MICHIKO）

札幌医科大学・保健医療学部・教授

研究者番号：10168809

研究成果の概要

平成17年度：初年度は2課題に取り組んだ。①プレパレーションの概念化のためにプレパレーションのバイブルと言われている英国政府への答申書「The Welfare of Children in Hospital：1959年,通称Platt Report」を日本語訳し勉強会をした。また,英国よりパメラ・バーンズ氏と後藤眞千子氏（在マンチェスター）を招き,公開セミナーを開催した。**平成18年度**：これまでの知見を基に教材作成（パワーポイント）を行った。この教材を6施設の看護師へ講演し,微修正を加えた。次に教材の効果判定のため,看護学生へ調査（看護大学3校と専門学校3校：計6校）,および医学部5年生へ調査を行う準備を行った。さら欧州視察として3月に12日間,5人でストックホルム2病院,英国3病院,計5病院を訪問した。**平成19年度**：看護学生へ授業前,授業後,実習後の3回,医学5年生へ授業前と実習後の2回,プレパレーションの意識の変化を調査した。また全国調査の項目の検討を行った。**平成20年度**：全国調査を実施した。また看護学生と医学5年生への調査を継続した。さらに1回の講演が看護師にどのような変化をもたらすかを調査した。

なお,前回の科研費でおこなった調査報告が,平成17年11月18日に日本看護科学学会第四回学術論文優勝賞を授与された。加えて,最近,小児看護学領域の教科書には必ずプレパレーションに関する項目立てがされるようになった。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	4,500,000	0	4,500,000
2006年度	4,200,000	0	4,200,000
2007年度	2,900,000	870,000	3,770,000
2008年度	3,400,000	1,020,000	4,420,000
総計	15,000,000	1,890,000	16,890,000

研究分野：医師薬学

科研費の分科・細目：看護学 臨床看護学

キーワード：プレパレーション,小児看護,教材開発

1. 研究開始当初の背景

プレパレクションの考え方は徐々に広まってきたが認知度はまだかなり低く、実践される率も低い状況であった。また、間違えて実践されることも少なくなく、混乱が始まっていた。例えば、子どもに断れば、馬乗り固定をしてもよい等である。

この状況を変えるには、第一に一つ一つの医療行為に置けるプレパレクションモデルを開発することと、看護基礎教育から教授する必要性を感じ教材開発に取り組んだ。

2. 研究の目的

我々は平成9年からこの研究に着手してきたが、現場の看護師から、具体的な方法の提示を求められることが多かった。この4年間で日常的に行われるケアの場面（採血・点滴、手術や心臓カテーテル、MRI/CT/アイソトープ検査、医療処置を受けた後のストレス緩和・解消）のモデル作成と教材を作成（ビデオ作成）することを目的とする。

3. 研究の方法

平成17年度：初年度の英国政府への答申書「The Welfare of Children in Hospital: 1959年、通称Platt Report」の日本語訳は担当者を決め、主に大阪に集まって定期的に勉強会をした。研修会は神戸市看護大学共催で二日間開催された。**平成18年度**：教材作成（パワーポイント）は札幌大が試案作成し、全員で検討した。その試案を6施設の看護師へ講演し微修正した。次に北海道地区の看護学校6か所（看護大学3校と専門学校3校）の協力を得て効果を検証した。さらに医師への普及も重要であることに気づき医学部5年生のポリクリで実証的に調査する準備を行った。また欧州視察では3月に12日間、5人でストックホルム2病院、英国3病院、計5病院を訪問した。**平成19年度**：看護学生へ授業前、授業後、実習後の3回、医学5年生へ授業前と実習後の2回、プレパレクションの授業効果を調査した。また次年度にプレパレクションの浸透度を全国調査する項目の検討開始した。**平成20年度**：全国調査実施：病院要覧から小児病棟がある病院を拾い出し、アンケート見本と承諾返信葉書を同封した。調査の承諾を得た病院へ医師と看護師に関する調査を行った。保護者は2つの患者会と保育園の協力でおこなった。

4. 研究成果

(1) Platt Report の監訳：出版元の了解を得て、全国の看護大学の図書館へ配布予定

(2) 研修会：講師は3名（①英国のパメラ・バーンズ氏：プレパレクションに関する第一人者、②後藤真千子氏：日本人では第一号のプレイ・スペシャリスト、③蝦名美智子：札幌医科大学保健医療学部）200名の定員に対し400名の応募があった。月刊誌：小児看護にも掲載され、プレパレクションの普及に貢献できた。

(3) 教材開発：この2・3年で発刊された小児看護学の教科書にプレパレクションは必須の項目立てとして組み込まれるようになった。

(4) 処置毎のプレパレクション・モデル：子どもの個性や年齢、また病院によって使えるツールが異なるため、一つのモデルに作りにくい状況がわかった。今後、実践例を収集し、別の報告をつくる必要がわかった。

(5) 欧州の研修：第18回日本小児看護学会で特別セッションを行った。最近、病棟保育士、child life specialist、hospital play specialistなどが出現し、看護師の役割と協働に混乱があったが、それを整理できた。

(6) キワニスドールの使用方法の開発

キワニスドールとは、長さ50cmの人の形を手作り人形で、裏表共に白地になっていて子どもが自由に顔や服装を色塗りできる。語彙が少ない幼児との意思疎通に重要なツールで「このAちゃんはどうしたら痛くなかったの」と訊くと、人形で「こうすればよかったの」と教えてくれるものである。キワニスクラブの協力を得て、教育方法の一環として使用方法を開発した。今後ネット上で公開したく思っている。

(7) 看護学生と医学生調査：授業では効果が大きかったものの、実習において現場の看護師からプレパレクション・マインドに逆行する説明を受けると、学生はあっさりとしてプレパレクション・マインドを手放すことがわかった。やはり、現場の取り組みが重要とわかった。

(8) 全国調査：医師や看護師には、プレパレクションの考え方は普及してきたがまだ低く（看護師25.3%、医師11.8%）、項目によって実践率が非常に低い状況であった。また、プレパレクションは、子どもが病院に入って出てくるまでの間に継続的に医療従事者から受ける「心の安心」対策であり、入院することの説明、痛みがない処置も説明、退院の説明などがある。しかし、点滴、採血、手術が中心であり、「点」で実践され、全体的な流れになっていないことがわかった。これからの小児医療における大きな課題であることがわかった。

(9) 日本看護科学学会第4回学術論文賞：平成17年11月18日、論文テーマ：「検査・処置を受ける子どもへの説明と納得」に関するケアモデルの実践と評価（その2）—子どもの力を引き出す関わりと具体的な看護の技術について—

5. 主な発表論文等

(研究代表者, 研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 13 件)

- (1) 佐藤加奈, 蝦名美智子: 大学生が語る幼児期の注射の経験. 日本小児看護学会誌. 18 (1): 105-111, 2009 (査読あり)
- (2) 宮崎綾子, 田中裕子, 牧野里美, 蝦名美智子: 耳鼻科受診する5歳児へのプレパレーション～キワニストールとアンパンチ遊びを用いて. 札幌医科大学保健医療学部紀要. 11: 37-42, 2008 (査読あり)
- (3) 蝦名美智子: Today' s Focus” 医療を受ける子どものためのプレパレーション”. クリニカルスタディ. 28 (14): 25-31, 2007, 12 (査読なし)
- (4) 瀧田零, 上村浩太, 今野美紀, 蝦名美智子: 1型糖尿病の女兒へ「キワニストール」を用い, 自己注射が可能となった事例. 外来小児科学会誌. 10 (1): 22-25, 2007 (査読あり)
- (5) 池上寿美, 岸本愛子, 吉谷京子, 犬塚奈美, 岡崎裕子, 蝦名美智子: 母親の付添い下で子どもの採血・点滴を行う試みの報告—母親・看護師・医師の実施時と1年半後の意識—. 神戸市看護大学紀要. 11: 57-65, 2007 (査読あり)
- (6) 半田浩美, 二宮啓子, 蝦名美智子, 兼清真由美, 萩岡あかね, 川恭子, 毛利京子, 松森直美: CTやMRI検査を受ける幼児後期の子どもに模型を用いた心理的準備—子どものイメージづくりを促進する効果的な看護介入と看護師の変化. 日本小児看護学会誌 28号. 15 (1): 32-39, 2006 (査読あり)
- (7) 蝦名美智子: My オピニオン「親の付き添いが当たり前医療処置の勧め」. チャイルドヘルス. 治療と診断社. 9(7): 2, 2006. 7 (査読なし)
- (8) Naomi Mastumori, Keiko Ninomiya, Michiko Ebina, Noriko Katada, Hitomi Katsuda, Yukie Kosako, Shinobu Sasaki, Tomomi Matsubayashi, Ayami Nakano, Mayumi Tsutsui, Naoko Iimura, Rina Emoto, Atsuko Suzuki, Hiromi Narakigino, Savoko Takahashi, Namiko Kisugi and Makiko Hukuchi: The practical application and evaluation of a care model for informing and reassuring children who are to undergo medical examinations and/or procedures (Part 2); Methods of relating and practical nursing techniques that best bring out the potential of children. Japan Journal of Nursing Science. 3(1): 51-64, 2006 (査読あり)

あり)

- (9) 蝦名美智子: わが国のプレパレーションの状況. 小児看護. へるす出版. 29 (5): 548-554, 2006, 5 (査読なし)
- (10) 蝦名美智子: 小児看護とプレパレーション—子どもが安心できる環境づくりに向けて. 子どもケア創刊号: 日総研グループ. p50-55, 2006, 4 (査読なし)
- (11) 蝦名美智子: Named Doctor になる—子どもの頑張りを引き出す工夫. Medical ASAHI. p 62-64, 2006, 3 (査読なし)
- (12) 蝦名美智子, 二宮啓子, 半田浩美, 松森直美, 杉本陽子, 前田貴彦, 鈴木敦子, 赤川晴美, 檜木野裕美, 鎌田佳奈美, 高橋清子: 小児が手術を受ける際の説明についての報告. 神戸市看護大学紀要. 9: 93-104, 2005 (査読あり)
- (13) 蝦名美智子: プレパレーションとは, B&C “Brain and Spinal Cord”. 日本二部脊椎・水頭症研究振興財団ニューズレター. 12 (5): 2-4, 2005, 12 (査読なし)

[学会発表] (計 19 件)

- (1) 下田あい子, 亘啓子, 伊織光恵, 今野美紀, 秦恵子, 蝦名美智子: プレパレーション講義前・6か月後の看護師の認識の変化. 日本小児看護学会第19回学術集会, 2009. 7, 札幌市
- (2) 吉田雪絵, 佐藤洋子, コリー紀代, 桃内雅代, 箱崎真木子, 照井美樹, 岡田洋子, 上村浩太, 秦恵子, 今野美紀, 蝦名美智子: 小児看護学実習で学生が行ったプレパレーション (その1) 実施に関する協力状況と困難さに関する検討. 日本小児看護学会第19回学術集会, 2009. 7, 札幌市
- (3) 桃内雅代, 箱崎真木子, 照井美樹, 吉田雪絵, コリー紀代, 佐藤洋子, 岡田洋子, 上村浩太, 秦恵子, 今野美紀, 蝦名美智子: 小児看護学実習で学生が行ったプレパレーション (その2) 実施後の子どもと家族の反応からの考察. 日本小児看護学会第19回学術集会, 2009. 7, 札幌市
- (4) 蝦名美智子: 日本小児看護学会第19回学術集会大会長講演: 教育と実践を結ぶ—子どもの力が発揮できる看護—. 札幌コンベンションセンター. 札幌市. 2009, 7
- (5) 今野美紀, 上村浩太, 蝦名美智子, 伊藤紀代, 佐藤洋子, 箱崎真木子, 吉田雪絵, 桃内雅代, 照井美樹, 岡田洋子: 小児のプレパレーションに対する看護学生の認識—講義前後, 実習後の変化より—. 第55回日本小児保健学会, 2008. 9, 札幌市
- (6) 蝦名美智子: 第55回日本小児保健学会, シンポジウム3 企画・座長: 小児保健とプレパレーション—子どもの力と共に—. 札幌コンベンションセンター. 札幌市. 2008, 9
- (7) 蝦名美智子, 今野美紀, 上村浩太, 伊織光恵, 秦恵子, 大屋一博: 小児のプレパレーション

- に対する医学生の認識-授業前, 実習後調査より. 第 55 回日本小児保健学会, 2008. 9, 札幌市
- (8) 松森直美, 今野美紀, 杉本陽子: 欧州の病院におけるプレパレーションの実践「スウェーデンにおける病院研修報告-一病院環境, プレイセラピーの実際と小児看護との連携-」. 日本小児看護学会第 18 回学術集会テーマセッション, 2008. 7, 名古屋市
- (9) 宮地直子, 田中純, 齊当恵子, 佐々木真紀, 原田綾花, 瀬戸美和, 小林由佳, 上村浩太, 今野美紀, 蝦名美智子: 親付き添い下の採血・点滴の実践報告-学習会後の看護師の変貌-. 第 2 回北海道成育看護研究会, 2007. 9, 旭川市
- (10) 今野美紀, 干場麻央, 横堀美樹, 蝦名美智子, 上村浩太: 小児病棟で着用する医師・看護師のユニフォームに関する医療者の意見第 2 回北海道成育看護研究会, 2007. 9, 旭川市
- (11) 蝦名美智子: 第 43 回日本循環器学会看護セッション教育講演, 明日からできるプレパレーション, 京王プラザホテル. 東京都. 2007, 7
- (12) 蝦名美智子: 大阪小児科学会定例会教育講演: 子どもを擁護することを再考する-一-できることからプレパレーションを-. 大阪大学医学部. 大阪市. 2007, 6
- (13) 蝦名美智子: 平成 19 年度北海道小児保健研究会特別講演: 小児のプレパレーションの実際. 北海道大学学術交流会館. 札幌市. 2007, 5
- (14) 秦恵子, 蝦名美智子, 今野美紀, 上村浩太, 伊織光恵, 伊藤紀代, 佐藤洋子, 大屋一博: 小児のプレパレーションに対する認識-医学生と看護学生の比較. 北海道小児保健研究会平成 20 年度総会, 2007. 5, 札幌市
- (15) 蝦名美智子: 平成 18 年度第 24 回看護研究発表会北海道地方会教育講演. 臨床における質的研究の実際-小児病棟の調査を通して-. ホテル札幌サンプラザ, 札幌市. 2007, 2
- (16) 蝦名美智子: 第 30 回国際キワニスクラブ日本地区年次総会札幌大会特別講演, キワニスクラブの活用の現場から, 札幌市. 2006, 9
- (17) 蝦名美智子: 第 16 回日本看護研究会北海道地方会教育講演, 臨床における質的研究の進め方-プレパレーションの実際を通して-. 天使大学. 札幌市. 2006, 6
- (18) 蝦名美智子: 第 15 回日本外来小児科学会年次集会教育講演, 子どもが安心できる医療-プレパレーションの勧め-. 大阪. 2005, 8
- (19) 蝦名美智子: キワニスクラブ定例会特別

講演, キワニスクラブとプレパレーション. 札幌. 2005, 7

〔図書〕 (計 6 件)

- (1) 蝦名美智子: 小児へのプレパレーション, 小野正子, 草場ヒフミ編. 根拠がわかる小児看護技術. メジカルフレンド社. 東京. p27-36, 2008
- (2) 蝦名美智子: 子どもに説明する技術-プレパレーション, 氏家幸子監修, 藤原千恵子, 山中久美子, 蝦名美智子編集: 母子看護学第 2 版-母子看護技術 II-小児看護技術. 廣川書店. 東京. p88-95, 2007
- (3) 蝦名美智子: 子どもの権利と意思決定, 氏家幸子監修, 小松美穂子, 山中久美子編集: 母子看護学第 2 版-母子看護学原論. 廣川書店. 東京. p 152-157, 2006
- (4) 蝦名美智子: 子どもの入院環境, 氏家幸子監修, 小松美穂子, 山中久美子編集: 母子看護学第 2 版-母子看護学原論. 廣川書店. 東京. p172-182, 2006
- (5) 蝦名美智子: 小児に接近し小児がもつ力を増す技術, 片田範子監修「実践看護技術学習支援テキスト」 III 章小児看護を实践する際に必要となる技術, 看護協会出版会. 東京. p21-37, 2005
- (6) 蝦名美智子: コミュニケーション技術, 片田範子監修「実践看護技術学習支援テキスト」 III 章小児看護を实践する際に必要となる技術. 看護協会出版会. 東京. p 38-52, 2005

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況 (計◇件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等
プレパレーションの実践に向けて-医療を受ける子どもへの関わり方
<http://www.kobe-ccn.ac.jp/753b50cf30fb30d530a130a430eb/01/file/preparation.pdf>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

蝦名 美智子 (EBINA MICHIKO)
札幌医科大学・保健医療学部・教授
研究者番号：10168809

(2) 連携研究者

檜木野 裕美 (NARAGINO HIROMI)
大阪府立大学 看護学部 教授
研究者番号：90285320

杉本 陽子 (SUGIMOTO YOUKO)
三重大学医学部 教授
研究者番号：00226466

鈴木 敦子 (SUZUKI ATHUKO)
四日市看護医療大学 看護学部 教授
研究者番号：50196789

佐藤 洋子 (SATO YOUKO)
北海道大学大学院 教授
研究者番号：90162520

岡田 洋子 (OKADA YOUKO)
旭川医科大学医学部 教授
研究者番号：90281906

松森 直美 (MATUMORI NAOMI)
県立広島大学保健福祉学部 准教授
研究者番号：90281096

今野 美紀 (KONNO MIKI)
札幌医科大学保健医療学部 准教授
研究者番号：00264531

東 晴美 (AZUMA HARIMI)
三重大学 医学部 准教授
研究者番号：60389799

高橋 清子 (TAKAHASHI SAYAKO)
園田学園女子大学人間健康学部 講師
研究者番号：90343251

橋本ゆかり (HASHIMOTO YUKARI)
三重大学医学部 助教
研究者番号：80437102

岡崎 裕子 (OKAZAKI YUUKO)
神戸市看護大学 看護学部 助教
研究者番号：

通山由美子 (TOORIYAMA YUMIKO)
大阪府立大学 看護学部 助教
研究者番号：

森 瞳子 (MORI TOUKO)
大阪府立大学 看護学部 助教
研究者番号：

伊藤 紀代 (ITOU NORIYO)
北海道大学大学院 助教
研究者番号：80431310

秦 恵子 (HATA KEIKO)
札幌医科大学保健医療学部 助手
研究者番号：70512226